

★ 究極の「働き方改革」？ 「FIRE」ムーブメントをご存知ですか？

1/17付日本経済新聞のコラム記事で、米国の若者の間で「FIRE」と呼ばれる運動が広がりを見せていることが紹介されていました。「FIRE」とは、「Financial Independence Retire Early」の略で、「経済的に自立して、早期の引退を果たす」という意味です。つまり、「できるだけ早期（40歳前後）に一定額以上の蓄えをすることで、生活の糧を得るための望まない労働から解放され、その後は自分の自由な意志で働くなり趣味に興じるなりして人生を送る」というライフスタイルを目指す運動と言えます。このムーブメントの背景には2008年の金融危機（リーマンショック）があるとされ、この時期をまたいで就職期を迎えた1980年以降生まれの若者がこのムーブメントの担い手となりました。当時20～30歳代の若者たちの多くは、いわゆる就職氷河期に直面し、あるいはリストラで職を失い、さらに親世代もリストラされるといった悪夢のような体験をさせられました。その影響で、会社に依存した人生に対するリスクや世の中の変化に対応する必要性を重く受け止め、できるだけ早く経済的な自立を実現すること、そのために倹約や貯蓄・投資に励むことの重要性を認識してこのようなムーブメントを起こしたようです。

そこで湧いてくるのが FIRE ムーブメントに対する以下のような素朴な疑問です。

●貯蓄や投資の総額は最低いくら必要？

年間支出額の25倍の蓄えが目安とのこと。月額20万円の支出であれば6,000万円、月額30万円の支出であれば9,000万円。蓄えた後は生計費としてただ取り崩すのではなく、自由な働き方による収入や不動産収入、投資収入等と併せて生計を立てる。

●収入のどのくらいを貯蓄と投資に回すべき？

稼いでいる額にかかわらず、少なくとも収入の半分を貯蓄と投資に回すことを目指すべき。年間500万円の収入であれば250万円、単純計算で24年で6,000万円に到達する。このレベルでは40歳でのリタイアは到底無理だが、60歳以降のまだまだ長い人生を想定すれば、取り組む価値はある。

●倹約の方法は？

物価や家賃等の生計費が安く済む地域に引っ越す、外食や娯楽費を極力抑えるなど。これと言って特別な倹約方法ではないが、周囲からケチと思われても精神的な自由を得るといった目的を持った「倹約家」のプライドを貫くことが大事とのこと。これは、お笑い芸人、オードリーの春日氏が一戸建てを購入するという目的のために超倹約生活を送っていることと重なる。ひょっとしたら春日氏は、日本における FIRE ムーブメントをリードする人物かもしれない。

●そもそも低所得者層には無理な話では？

必ずしも「高所得者層だからできる」という話ではない。高所得を得ていても浪費家で、これからも高所得が継続すると思い込んですべて使い切ってしまう人もいる。大事なことは、可能な範囲で目的を持って貯蓄して富を蓄え、人生の自由度を大きくしていくことで自分が描く「幸せな人生」に近づくこと。

もちろん FIRE ムーブメントを否定的な目で見ている人々は相当数存在し、以下のような批判的なコメントを寄せています。

- ・極端な倹約生活によって作られる思い出はごくわずかで、人生の楽しみが奪われている
- ・消費活動が抑制されると資本主義経済が成り立たなくなってしまう
- ・経済が縮小すると、当てにしていた不動産収入や投資収入がかなり減ってしまう

米国でこのようなムーブメントが起きているとはいえ、現段階では日本を始めとして世界にその潮流が広がっていくとはとても思えません。大多数の人は、子育てに関わる様々な支出やその次にやってくる親の介護費用に直面するからです。自分たちのことを考えるだけで済むのであれば挑戦できるかもしれませんが、それは現実的ではありません。しかし、このムーブメントによって自分なりの「幸せな人生」を思い描き、それを実現するために今から何をすべきかを自問自答することは、非常に大切なことだと思います。近い将来、徐々に AI に仕事を奪われていくことを想定すると尚更かもしれません。(工藤克己)